

活動レポート

北方海域技術研究委員会

文責：北方海域技術研究委員会幹事長 松本英明

平成 29 年度技術研究発表会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会では 2018 年(平成 30 年)2 月 2 日(国研)土木研究所寒地土木研究所との共催にて「平成 29 年度 技術研究発表会」を開催しました。本年は 70 名(うち技術士 39 名、日本技術士会会員 21 名)の参加を得ることができました。

講演会は、寒地土木研究所寒地水圏研究グループグループ長の船木淳吾氏の開会挨拶を皮切りに、当研究委員会の土井幹事の司会のもと、ご講演 4 件の内容にて開催しました。以下に本講演会の内容をご報告します。



写真-1 船木淳吾グループ長の開会挨拶

2. 講演 1

寒地土木研究所寒地水圏研究グループ寒冷沿岸域チーム主任研究員の木岡信治氏を講師としてお招きし『海氷のはなしと寒冷沿岸域チームでの研究概要』と題し、ご講演頂きました。

講演は、海氷と流氷、氷河の違いなど氷の基本的な話から始まり、氷の挙動の解析、3.11 大津波来襲時の被害など、学際的テーマから現場の津波防災まで幅広い内容をコンパクトにご紹介されました。

研究紹介では先代から行われている所内施設を用いた実験についてご紹介されました。質疑応答では、耐氷設計への反映について討議が行われました。



写真-2 木岡信治 講師

3. 講演 2

寒地土木研究所寒地水圏研究グループ水産土木チーム研究員の梶原瑠美子氏を講師としてお招きし『衛星画像による海底被覆物マップを用いた漁場環境の評価手法について』と題し、ご講演頂きました。



写真-3 梶原瑠美子 講師

講演では、人工衛星『だいち』によって撮影されたマルチスペクトル4バンド画像を用い、九州・阿久根市のウニ漁場を対象として、海底被覆物指標DI値のマップを作成し、様々な空間スケールで漁場環境を評価した結果をご紹介されました。講演後は衛星画像を使用した評価における水深限界について質問がなされ、熱心な討議が行われました。

4. 講演3

北海道水産林務部水産局漁港漁村課海岸漁港事業グループ専門主任の井上真仁氏を講師としてお招きし『漁港内泊地をナマコ増殖場へ有効利用するための検討について』と題し、ご講演頂きました。

まず研究の背景としての「漁港ストックの有効活用とにぎわいの創出」の概要から始まり、ナマコ養殖に着目した乙部漁港(元和地区)を事例として、環境調査の結果と生息環境確保のための対策工法の検討について説明されました。

講演終了後は、防波堤の導水孔の大きさ、ナマコの管理手法、夏季の安息環境の創出、所得増の見通しなど様々な側面から熱心な質問が行われました。



写真-4 井上真仁 講師

5. 講演4

日本データサービス株式会社水工第I部課長の若森宣人氏を講師としてお招きし『リニューアルパネルを用いた港湾・漁港構造物の補修方法の紹介』と題し、ご講演頂きました。

講演では、港湾・漁港構造物の劣化損傷の事例を説明すると共に、リニューアルパネル工法の概要と

試験施工での実際の手順・状況について、動画を活用した臨場感のある紹介が行われました。最後に、試験施工で確認できたリニューアルパネルの実用性と経済性、そして新規断面に対する提案についてご講演されました。

講演終了後は、維持管理手法としての今後の展開について質問が行われました。



写真-5 若森宣人 講師

6. おわりに

本発表会では、北海道の港湾・水産を支えるための様々な技術的トピックについてご講演頂き、北方海域の今後の展望について考える有益な機会となりました。

最後に、ご多忙な中、快くご講演をお引き受け頂いた各講師と、会場の提供・準備など企画全体を通じて全面的にご協力いただいた寒地土木研究所の皆様から心から御礼申し上げます。



写真-6 熱心に講演に耳を傾ける参加者